



人気観光地・湯河原でも……

業歴90年超の温泉旅館がコロナ禍に倒れる

ネットで集客していた素泊まり温泉旅館

1928年創業の老舗旅館「源泉ゆ宿高すぎ」を経営していた「合名会社高杉旅館」（神奈川県湯河原町）が、ことし1月22日までに事業を停止。神奈川県を代表する観光地のひとつ、湯河原温泉のホテル・旅館では初の「新型コロナウイルス関連倒産」となりました。

同社は、JR東海道本線の湯河原駅からバスに乗り、「温泉場中央」バス停すぐの場所に立地した、業歴90年超の温泉旅館「源泉ゆ宿高すぎ」を経営。近年は、気軽に泊まれる「素泊まり専門湯河原温泉」の温泉宿として知られ、インターネット予約を中心に集客するなど一定の常連客を得て、2019年7月期には年売上高約3,700万円を計上していました。

Go Toキャンペーンの恩恵を受けられず……

しかし、従前から零細規模の域を出ず、近隣旅館との競合などもあり、厳しい業況が続きました。この間、代表社員が死去し、子息が実質経営者となっていました。収益性は長年低調に推移し、源泉の使用料も滞納する状況に陥っていました。

こうしたなか2020年に入り、国内で新型コロナウイルスの感染が拡大。地元湯河原の観光客が急減したうえ、同年7月から開始された、旅行代金の半額相当を旅行者に補助する「Go Toキャンペーン」も宿泊単価の高い高級旅館

に予約が集中。高杉旅館のような低価格帯の宿への寄与は限定的なものにとどまりました。先行きの見通しも立たなくなるなか、ここに来て資金繰りが限界に達し、事業継続断念に追い込まれました。

ウィズコロナ時代に求められる新たな一手

帝国データバンクの調べでは、2020年の宿泊業の倒産は127件にのぼり、過去最多となった東日本大震災時の2011年（131件）、リーマン・ショック時の2008年（130件）に次いで過去3番めの高水準となりました。また、新型コロナウイルスの影響を受けた倒産のうち、今回紹介した高杉旅館のような「ホテル・旅館」は業種別で、「飲食店」「建設・工事業」に次いで3番めに多くなっています。

目前に迫ったゴールデンウィーク（GW）の時期は、ホテル・旅館業者にとって年末年始、夏のお盆と並び、1年を通じて最大のかき入れ時のひとつ。ですが、昨年ほどの外出自粛は考えにくいにせよ、今年も厳しいGWになるのは確実でしょう。コロナ禍に苦しむホテル・旅館の“干天の慈雨”となった「Go Toキャンペーン」も、第三波によって一時停止となり、本稿執筆の4月1日時点で再開の見通しは立っていません。厳しい言い方にはなりますが、Go Toの再開・継続をただ待つだけではなく、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」を前提とした“新たな一手”が、いまこそ求められています。▲

ないとう おさむ 2000年に株式会社帝国データバンク入社。本社情報部、産業調査部、東京支社情報部を経て2018年10月より現職。入社以来一貫して、倒産企業の取材、倒産動向のマクロ分析を手がける。専門は倒産動向分析、企業再生研究。